

令和元年度第1回豊田市環境審議会 低炭素部会 会議録

【日時】 令和元年6月28日(金) 午後3時00分～4時30分

【場所】 豊田市役所 東庁舎 東53会議室

【出席者】

部会長 杉山 範子 (名古屋大学大学院環境学研究科附属 持続的共発展教育
研究センター 特任准教授)
梅村 豊作 (市民公募)
長内 隆久 (NPO 法人とよたエコ人プロジェクト)
近藤 恭弘 (豊田商工会議所第1工業部会 部会長)
水野 清 (愛知学泉大学現代マネジメント学部 准教授)
(事務局) 塩谷環境政策課長、疋田環境政策課副課長 (ほか)

【欠席者】 1名

【傍聴人】 なし

【次第】

- 1 環境政策課長挨拶
- 2 部会長の選任
- 3 委員紹介
- 4 議題
 - ・環境基本計画の低炭素社会における前年度取組について (協議)
- 5 その他

1 環境政策課長挨拶

2 部会長の選任

杉山範子委員を選任。

3 委員紹介

4 議題

・環境基本計画の低炭素社会における前年度取組について（協議）

部会長 事務局から順次説明を。

事務局 （資料 1～3 に基づき説明）

施策の柱ごとに進捗状況を説明。施策の進捗状況が「遅れ」と内部評価した施策から順に進めさせてほしい。

委員 （了承）

【施策の柱 1.2（民生・交通の低炭素化の促進）】

委員 スマートタウンについて詳しく知りたい。コンペなどを実施したものの条件が厳しく実施できなかったということか。

事務局 平成 26 年度に、柿本町の市有地を宅地として売却。その際、スマートタウンにする条件で提案を募り、民間事業者主体で整備された。戸建て 21 戸、共同住宅 2 棟あり、うち、太陽光発電による電気の戸建住宅間の電力融通も 3 戸あった。

評価で遅れとした理由は、当時、この取組の第 2 弾、第 3 弾を想定していたが、未だ誘致できていないため。

委員 対象の土地は無いのか。

事務局 同じ規模での開発できる用地は、それほど無いと思われる。通常の民間開発も含めてスマートタウンを誘致していくことも施策には含めている。

委員 自家消費を啓発するのは良いが、発電できるからと言って大量に電気を使用しても良いものではない。また、今後は FIT 切れも見込まれる。最近では、ブロックチェーンを利用して、余った電力を第 3 者に融通する方法などがあると思われる。スマートタウンの条件に入れるなど、実験的に導入してはどうか。

事務局 個々の住宅向けの事業では、発電した電気を自家消費を促すためスマートハウスへの補助制度がある。発電するための太陽光発電パネルのみでは補助せず、エネルギーをマネジメントする HEMS と、発電した電気を貯めておく蓄電池を一緒に設置した市民に対して補助している。

HEMS で電気の使い方を管理することにより、発電量だけでなく使用量も見える化できるため、自ら電気の使い方を注意すると思われる。

委員 区画整理などのときにやらないとできない。地区計画（計画決定？）策定するときに豊田市が目指すまちづくりの条件としては、遅れているの

であれば、やっても良いと思われる。既存の市街地を再開発するときなどでしかできないと思う。

委員 街区のスマート化に関して、施策に対するゴール、目標は何なのか。スマート化とは、個人向けの住宅のみを対象としているのか。工場や商業施設は対象か。

事務局 目標は、市域全体の CO₂ 排出量削減。事業目標は、計画期間 4 年間で 2 件としている。民生・交通の低炭素化であり、集合住宅も含む。

部会長 事業者向けの施策は、業務部門向けでは、ZEB などを想定していると思われる。

委員 業務部門でも、事業展開ができるならやってほしい。目標に加えるなら省エネ診断も含め、項目を増やして良いと思う。

事務局 省エネ診断は、経済産業省の補助金を活用して、大学や病院などで実施している。

委員 施策の進捗状況が、遅れているのか順調なのかがはっきりわからない。定量的だけではなく定性的でも良いので、ゴールの姿や各年度の姿がわかるとよい。数字だけではなく、施策の中で各年度の目指す姿を描くと良い。

事務局 配布した資料に、事業のレベルでの各年度の目標を記載している。施策は複数の事業が集まったもので、明確にゴールを示すことは難しい。

委員 判断基準のみを事務局で示してもらえば、議論しやすい。ある施策の中の 4 事業のうち 3 つが順調だから、全体評価として「順調」とするなど。

委員 施策の柱 1.2 の 3 つ目【環境配慮行動の促進】が遅れているとは思えない。成果指標のエコファミリー世帯数はクリアしていないが、その他事業目標は達成している。逆に、4 つ目【次世代型低炭素交通システムの導入】における次世代自動車の普及促進事業は、補助件数では目標に達していないが、施策の進捗状況は「順調」としている。

事務局 施策の進捗状況は、該当する成果指標の目標達成状況から一律に判断している。指摘のあった 4 つ目の施策は、成果指標の次世代自動車の普及率が順調に伸びているため、「順調」としている。

部会長 事務局は厳しめに評価していると感じられる。成果指標もあり、横並びの評価は難しいので、総合的に判断したのだと思う。成果指標の数値を見極めて、そのあたりの基準を示してほしいという意見だと思う。

委員 内部評価について、評価理由がはっきりしていないと、余計な意図を勘ぐってしまう部分もある。建設的な議論につなげるため、内部評価は淡々と、客観的にやった方が、そのあとが円滑に議論できる。

委員 重要度は必要ないのか。多くの取組があるなら、優先度があっても良いのでは。また、施策事業間の関連性もわからない。例えば、スマートハウスは市民の関心は一般に少ないと思われるが、環境配慮行動の促進など、関係する内容から判断できるのでは。

部会長 温暖化対策は総合的な側面がある。重要性は計画には載っているが、資

料上からもわかるようにした方が良い。

委員 重要度・優先度からみると、遅れていても良いという取組もあると思う。3段階評価で、そのうち「達成」が4年後の姿を実現した状態、というのは、「遅れ」が悪くて「順調」が良い、と一律に感じられるため、3つだけの分類は、乱暴にも感じられる。

部会長 今回の意見だと、住宅などのスマート化は重要なので、増えているから、評価しても良いということになる。

委員 内部評価の仕方を一律に決めてしまえばよい。

委員 成果指標のエコファミリーの世帯数は、4万件超えないといけない。今年度中にやれることがあればエコットでも取り組んでいきたいが、1日200件超えないと難しい。非常に困難とも思える。

委員 世帯数は、累計なのか、1年間の数値か。

事務局 後者であり、カードを持っている人が、年に1回でも利用した人を指し、新規登録者も加味している。いわゆるアクティブ数。重点施策ではないが、エコファミリー制度は、重点事業としている。指標は、施策を進める手段であり、変わりうるものという認識。

委員 成果指標を変えることはあるか。

事務局 施策を実現するために、手段は変えていっても良いと考えており、それに合わせて指標は変えていっても良いと思う。

委員 本日配布された、今年度の取組についても紹介してほしい。

事務局 (エコエコチャレンジ90の説明)

委員 配布する箇所は。インターネットから取り寄せなどは。

事務局 支所・交流館・公共施設などに配置。ホームページに情報は載せている。

委員 エコットでも配布。説明には苦慮している。結構大変と感じる市民も多い。だいたいの市民は、「買った食材や作った料理を食べきる。食品ロスを出さない。」など、特定のメニューならできる、と言われる方が多い。自己宣言でポイントが発行されるメニューだが、その原資は税金であり、それで良いのか、という声もあるが、今年度は、この取組が主なので、これに力を入れていくべきとも感じている。

委員 企業にも声をかけているのか。商工会議所や健保などと連携すると良い。事業展開の部分で工夫すると進みが早い。健保などでは、労働組合に働きかけている。

委員 企業だと組合を利用していたりする。最初はある程度、組織的に推進しないと進まないが、やりすぎるといけない部分もある。組合と連携するのは手。

部会長 学校にもエコエコチャレンジを配布しているのか。

事務局 日数を短くしたもの(30日)を配布する予定。やってもらいたい人にいかに届けるかが重要と感じている。

委員 審議会本会議では、部会の意見を受け、修正したものを出すのか。それとも来年度からやり方を変えるということか。事務局としてもはっきりしては。

部会長 他の部会も同様に進めているのか。

- 事務局 その通り。意見を受けどう反映させるかは検討する。
【柱 1.5（気候変動適応策の推進）】
- 委員 成果指標が職員の認知度なのはなぜか。施策の方向性とリンクしていない。市の職員の認知度を上げるなら、そういった事業を挙げるべきかとも感じられる。
- 事務局 適応自体は、最近の考え方。策定時には、考え方自体が話題になり始めたばかりであり、まずは各部局に考え方の理解を広めていく必要があった。指標の基本的な考え方だが、まちの状態指標と成果指標の 2 種類ある。前者は、アンケート評価など、必ずしも毎年度わからないもの。後者は、取り組んだ結果を、すぐにわかるようなものを選定している。
- 部会長 市として目指す方向性は、認知度を上げるのではなく、適応策を着実に進めていくことでは。何かしら指標を変える必要があるかもしれない。
- 委員 認知度の向上が目的のようにも受け取れる。進捗の理由と今後の方向性の書きぶりが違う。認知度を上げるためにはどうするのか。
- 事務局 現在、市でどんなことを実施しているのか整理しているのと同時に、市民への理解を広げる取組を行っている。緩和策は目標に何%という数値があるが、適応策はどういった目標の設定をすることが良いのか意見を聞きたい。
- 部会長 全国どころか全世界で検討されている内容。それこそ適応の下に地球温暖化対策と同じ規模かそれ以上の対策がぶら下がっているとも考えられる。まだ国も法律を作ったばかりであり、今言われているのは、健康、農業など暑さ・豪雨対策でやっているのもあるということ。これらを適応策だと伝えていき、その後市として適応策を進めていくステップ。
- 委員 関係部署へのヒアリングなどをしてみるのも良いかもしれない。
- 部会長 地域適応計画の策定ともある。この計画の中で、何をやっていくのかを描いていくと思われる。
- 委員 来年度か再来年度に計画をつくると取組内容を入れては。
- 事務局 指標はどういうものが適切か。熱中症による救急搬送者数などか。
- 部会長 施策の内容によると思う。熱中症なら死者を減らす。クールスポットや給水スポットの施設を増やすなど。ほかにも緑地、街路樹を増やすなども考えられる。
- 委員 多くの部局で実施すべきことがある。各部局で 1 つ選んで、ということも手かもしれない。
- 事務局 市の多くの施策の中で、どれが適応策になるものかを整理することも必要。
- 委員 遮熱舗装や人工林間伐も適応策かもしれない。
- 委員 昨夏の事件もあり、企業でも熱中症など認知度は上がっていると感じられる。大雨の際の洪水対策などの具体的な取組をアピールしたうえで、展開しては。
- 委員 適応を知らない人は多い。熱中症対策を適応だと認識している人は少ない。
- 事務局 日ごろからやっているものも適応策になりうる。
- 委員 まずは、適応策はこれ、と決めてしまっってはどうか。
- 部会長 市民向けの認知度は取っていなかったか。資料にある職員の認知度より高かった気がする。
認知度を上げる事業をやっていく。事業を変えていくのも手では。最初の取り組み方としては、職員からというのは理解できる。
どの施策が適応なのか。重要性を判定していかないといけない。
- 委員 啓発という意味では、事業は進んでいると思われる。成果指標も下がっ

ているとはいえほぼ横ばいであり、「順調」に近いのではないか。

事務局 遅れの施策は以上だが、その他特に意見あれば聞きたい。

委員 実証中について、詳細がわかれば聞きたい。

事務局 VPP の実証、山間地域における地域電力。市で発電した電気をスタジアムに送るグリーン電力などがある。

委員 相談・助言の数値については。学校の見学などが数字に入っているのか。

事務局 目標値は、平成 26 年度から 29 年度まで設置していた豊田市再生可能エネルギーセンターの相談実績総数を基にしている。平成 30 年度からはとよたエコライフセンターがその役割を引継ぎ、エコポイントやエコライフ全般の相談に加え、豊田市エコファミリー支援補助金の受付や事前相談、セミナーも開催している。相談・助言の数値は、それら相談や参加者全てを含めている。

部会長 エコフルは、海外からの訪問者が唐突に訪問しても、短い時間で説明できていてさすがだと感じた。

部会の意見を取りまとめて本会議に諮る。

5 その他

特になし

以上